

会 議 録

会 議 名 称	平成 28 年度 第 4 回加古川市スポーツ推進審議会
開 催 日 時	平成 29 年 3 月 21 日（火）午後 3 時 00 分から午後 4 時 30 分まで
開 催 場 所	加古川市役所 新館 191 会議室
出 席 者	< 委員 > 高見会長、伊藤委員、小林委員、戎木委員、樽本委員、 松野委員、難波委員、小寺委員 < 市 > 田渕教育長、日浦部長、谷池次長、野村課長、宮武副課長 栗山係長、小口係長、村上主事、飯塚書記
会 議 次 第	開 会 1 会長あいさつ 2 教育長あいさつ 3 教育委員会からの諮問について 4 審議事項 (1) 「加古川市スポーツ振興基本計画」の評価・検証について (2) 「第 2 次加古川市スポーツ推進基本計画（仮称）」の名称について (3) 「第 2 次加古川市スポーツ推進基本計画（仮称）」策定に係る基本 概要について 5 その他 (1) 今後の加古川市スポーツ推進審議会のスケジュールについて 閉 会

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
開 会	
1 会長あいさつ	会長あいさつ
2 教育長あいさつ	教育長あいさつ
3 教育委員会からの 諮問について	「加古川市スポーツ振興基本計画」の評価・検証及び「第 2 次加古川市 スポーツ推進基本計画（仮称）」の策定について教育委員会からスポー ツ推進審議会へ諮問
4 審議事項 （事務局）	(1) 「加古川市スポーツ振興基本計画」の評価・検証について < 事務局説明 >

(委員)	高齢者については、スポーツに参加することが厳しい。高齢者が気軽に参加できる体制が出来れば良いが、老人クラブも会員が非常に少なくなっている。グラウンド・ゴルフ大会を開催するなど機会があれば、スポーツをする高齢者の裾野が広がっていくのではないと思う。老人クラブも多いときでは、240 程度のクラブがあったが、今は 150 程度になってしまっていることが大きな課題である。 また、みるスポーツでは、アンケート調査結果を見る限り、「野球」が一番人気なので、野球ができるような機会を作ったり、有名な球団を呼ぶなど様々な形で野球の観戦者を増やしていくことも重要である。高齢者となると、どうしてもスポーツをするよりも見る機会の方が多いのではないと思う。
(会長)	「競技場やスタジアムでスポーツを観戦する市民の割合」が平成 28 年度の調査では大きく下がっているが、以前の調査では競技場やスタジアムといった具体的な指定はなかったということによろしいか。
(事務局)	前回から表記をしていたが、今回から、「直接会場に赴いて観戦したことがありますか」といった表現に質問項目を変えているので、前回との差が出ていると思われる。
(会長)	テレビでの観戦は含まれないということによいか。 また、高齢者のスポーツの一つの担い手である老人クラブから会員数の話があったが、スポーツクラブに加入している市民の割合も減少傾向にあるが、実感としてはどうか。
(委員)	現在、会員は約 3,500 人おり、大きく会員数が減ったり増えたりすることはないが、スポーツクラブも発足当時よりは減ってきてしまっている。会員を増やすということに関しては、口コミや広報紙など PR に全力を尽くすしかないが、現在伸び悩んでいるため、今後は増やせるよう方法を検討していきたい。しかし、会員の中の意識としては、現状スポーツクラブに満足している会員は多い。
(委員)	確かに、クラブ内の意識調査をすると、継続意識は高い。 その方たちをいかに引き留めるかが、重要である。
(委員)	ネットワーク委員会が立ち上がったのを機に、体育協会やスポーツ推進委員会との繋がりをもう少し強くしていく方向で考えていきたい。体育協

	会の会員の方にも、スポーツクラブに協力をいただきたい思いもある。 せっかく 3 団体で構成されているネットワーク委員会なので、横の繋がりも大事にしたい。
(委員)	「運動、スポーツを行う施設や場所で、市民の 10%以上が利用する施設や場所の数」について、目標が 6 ヶ所以上のうち、現在の調査では 4 ヶ所となっているが、残り 2 ヶ所はどのようなところを想定されているのか。
(事務局)	市民の方がどのような施設や場所を利用されているのか、といった質問項目なので、特定の施設を 10%以上利用するという目標ではない。
(委員)	市民全員の 10%以上が 4 ヶ所の施設や場所で運動をしているのか。
(事務局)	市民全員というわけではなく、今回アンケートに答えていただいた方の中から 10%以上利用しているということになる。
(委員)	どこの施設が 10%を超えたのか。
(事務局)	加古川河川敷、地域の公園・空き地、自宅（室内、庭）、自宅周辺となっている。
(会長)	10 年前と比べても、交通手段を使ってどこかの体育館に行かれる方の割合よりも、市民全体としては居住しているところの周辺で軽くできるウォーキングなどのスポーツをしている方の割合が高く、そのような方が市民のスポーツを支えていることが改めて分かる。また、高齢者の方になると、ラジオ体操などの体操が増えてくる。
(委員)	10 年間の結果推移を見たときに、一番重要なのはスポーツを行う市民の割合が増えるということだと思う。週 1 日以上運動・スポーツを行う市民の割合が 50%近くあるのは、目標には少し達していないが、良い数字だと思う。 また、先ほどスポーツクラブの話があったが、会員数が約 3,500 人ということで、個人的には多いと感じる。また、若者たちもそういったクラブに加入しなくても、色々なところでスポーツをしていると思うので、ここだけに重きを置かなくても良いと思う。 広報やポスターなどの宣伝力はとても大きいと思うので、次の計画にも含んでも良いのでは。

(会長)	週 1 回以上運動・スポーツを行う市民の割合が 48%ということはほぼ 2 人に 1 人の割合なので良い傾向だと思う。
(委員)	運動、スポーツの定義は難しい。例えばサラリーマンが駅から会社まで歩いている場合でも、それをスポーツと呼ぶのか。スポーツという意識をもって歩いているのか。
(会長)	ウォーキングはスポーツではないといった意見もあるが、加古川市はスポーツをこのように定義していますといったものを書いたならば、もっと数字としては上がるかもしれない。
(委員)	ささえるスポーツのところで、スポーツ・ボランティアを行う市民の割合とあるが、ボランティアには有償のボランティアや無償のボランティアがあるがどちらを答えれば良いのかが難しいのでは。広い意味でのボランティアだともっと数字も上がるのでは。
(会長)	先ほどのスポーツの定義と似ていて、例えば団体から動員がかかった場合だと、スポーツイベントにスタッフとして参加しているのにボランティアではないと思われるかもしれない。また、少年野球で監督をされている方ももちろんボランティアであり、親御さんも協力して支えているので、ボランティアに含まれると思う。実際はもっと多いと思う。
(委員)	以前、プロバスケットボールチームの西宮ストークスが加古川市で試合をされたときに、会場の設営等も全てボランティアの方がされていた。ボランティアにも様々な形があって、自分達がしていることがボランティアだと認識している方もいれば、していない方もおられるので、一言では言い表せられないと思う。
(会長)	次期の計画の中でも、もう一度認識の確認は必要である。
(委員)	ボランティアを進んでするのは難しい。意識を高めていくことが重要だと思う。
(委員)	ボランティアの定義が逆に浸透しているかもしれない。障がい者のスポーツ大会は、ほとんどがボランティアの方で行われている。スタッフでない方も車椅子を下までおろしてくれたりするなど、とても助けられている。障がい者スポーツではボランティアの方がいないと成り立たない。皆

	さん当たり前のようにしていただけるので、あえてボランティアとは思わない。
(委員)	ボランティアというと、非日常的な活動に自らボランティアに行くというイメージを取られるかもしれない。
(会長)	数字にするのは難しい。 次に、情報発信という点で、「スポーツイベントを知っている市民の割合、スポーツ教室を知っている市民の割合」が共に 10 年前から比べると、大幅に伸びているが何か理由があるのか。
(事務局)	理由の一つとして挙げられるのは、加古川マラソン大会や加古川ツーデーマーチが加古川市のイベントとして定着していることから知っていると答えた方が多いと考える。長年開催をしている大会については広く周知できているが、近年開催をしている加古川市民スポーツカーニバル等については、まだまだ浸透していない。
(委員)	情報発信はとても重要だと思う。加古川総合スポーツクラブは、最近 HP を見ての問合せが多くなったと聞いている。
4 審議事項 (事務局)	(2) 「第 2 次加古川市スポーツ推進基本計画（仮称）」の名称について ＜事務局説明＞
(会長)	「スポーツ推進計画」で良いのでは。
(委員)	(異議なし)
(事務局)	「第 2 次」は必要か。
(会長)	名称が変わるので、なしで良いのでは。 「加古川市スポーツ推進計画」で良いと思う。
(委員)	(異議なし)
4 審議事項 (事務局)	(3) 「第 2 次加古川市スポーツ推進基本計画（仮称）」策定に係る基本概要について ＜事務局説明＞

(会長)	基本理念は、「加古川市スポーツ振興基本計画」と同じで良いのでは。
(委員)	(異議なし)
(会長)	ライフステージ別に記載している表では、生涯スポーツは楽しみのためのスポーツ、競技スポーツは勝ち負けにこだわって行うスポーツであり、使い分けをしている。生涯スポーツは一生涯楽しむスポーツ、その中のある時期には競技に打ち込む時期もある。また、競技から一度離れたとしても、違うスポーツの楽しみ方というのを一生涯のスポーツの中で、自分達のライフスタイルに合わせたスポーツの楽しみ方をするという考え方でいくと、生涯スポーツ対競技スポーツと捉えられるような書き方は望ましくないということで一緒にしている。
(事務局)	重点目標のささえるスポーツのところで、「スポーツ環境の整備」ということを追加しなければならないと考えている。「ささえる」の部分ではソフト面だけでなく、ハード面も含めて生涯スポーツ、競技スポーツ、障がい者スポーツをささえる環境づくりが重要だと考えるので追加してもよいか。 市民調査のアンケートでも施設については、多くの意見があった。
(委員)	(異議なし)
(会長)	「兵庫県スポーツ推進計画」と「加古川市スポーツ推進基本計画（仮称）」を比べると、文言が少し堅いように感じる。市民の方々にも見ていただき、理解していただきやすい内容にするのであれば、なるべく柔らかい文言で作った方が良くと思う。
5 その他 (事務局)	(1) 今後の加古川市スポーツ推進審議会のスケジュールについて ＜事務局説明＞
(会長)	平成29年度についても審議会を4回開催し、次期スポーツ推進計画の策定について、審議していく。 また、計画を作るにあたり、調査の結果を参考にしながら進めていくが、加古川市スポーツネットワーク委員会の方から意見をもらえる機会はあるのか。
(事務局)	今のところ予定はしていないが、今後検討する。

(会長)	その他何かあるか。
(委員)	障がい者スポーツに関して、障がい者スポーツとスポーツ推進委員会との繋がりがないので、もっと関わっていきたいという方向性はあるが、動けていない。もっと連携が必要だと思う。
(委員)	障がい者スポーツ協会も同様に動けていない。姫路市は障がい者スポーツと企業が上手く連携できているので、モデルにして取り組んでいきたい。
(委員)	情報交換をもっとできるようにしたい。
(会長)	ネットワーク委員会の中に、障がい者スポーツの関係者に入ってもらえるのはどうか。 東京都スポーツ推進委員会では毎週のように障がい者スポーツに関わる研修会を開催しているが、地方に行くほど少なくなっていく。ぜひ連携を図っていきたい。
閉 会	